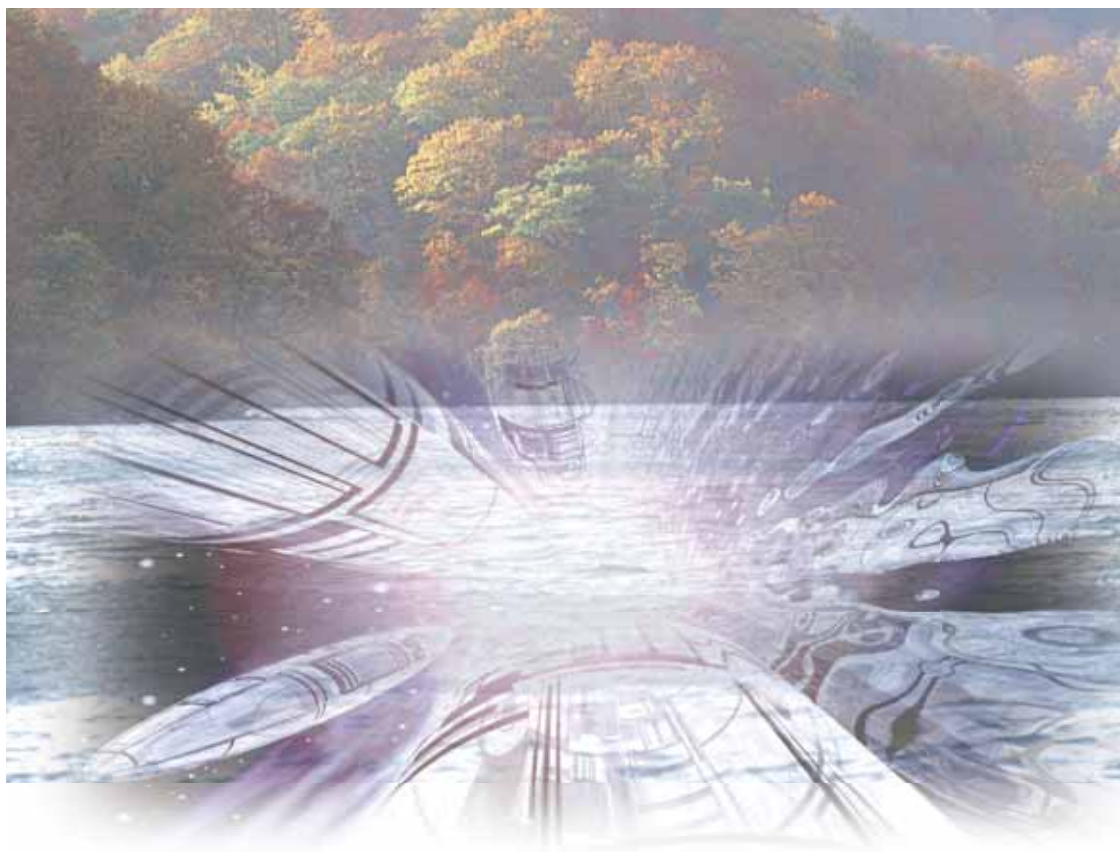


株主のみなさまへ



第143期 中間報告書

平成22年4月1日から9月30日まで



エンシュウ株式会社



TOP MESSAGE

株主のみなさまへ

株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は格別なご支援を賜り厚く御礼を申し上げます。

さて、当中間連結期間におけるわが国の経済は、中国等アジア新興国を中心とした外需や政府の景気対策などにより一部では回復の兆しが見られるものの、急激な円高や株安など不安定要因もあり、景気の先行きは不透明な状況で推移いたしました。

このような情勢の中で当社グループは、中国等アジア新興国を中心とした海外への積極的な販売、生産の展開を図ると共に原価低減および経費削減等のコストダウンに努めてまいりました。

その結果、輸送機器関連事業部門の主力製品の生産が増加し、連結売上高は 10,678 百万円（前年同期比 34.7% 増）、損益につきましては、連結営業利益が 78 百万円（前年同期は連結営業損失 760 百万円）となりました。連結経常損失は為替差損の影響等もあり 224 百万円（前年同期は連結経常損失 771 百万円）、連結中間純損益は、231 百万円（前年同期は連結中間純損失 1,273 百万円）の損失となりました。

当社グループを取り巻く経営環境は、中国等アジア新興国においては、多少の減速感はあるものの、引き続き成長すると思われます。しかし、欧米など先進国の景気動向や急激な円高の進行は、景気の下振れ要因となり設備投資マインドを減退させる懸念もあり、しばらくは厳しい状況が続くものと思われます。

このような状況のもと、当社グループは、グローバル経営を目指し、設備投資需要の旺盛な中国を中心としたアジア新興国で

C O N T E N T S

株主のみなさまへ	1
事業の概況	3
中間連結財務諸表	5
トピックス	7
株式の状況	9
会社の概況	10



の市場開拓を積極的に推進し、市場ニーズにあった製品の開発と現地での生産拡大を推進してまいります。また、徹底した原価低減とあらゆる経費の削減を図り、経営効率の改善改革に取り組んでまいります。

当社グループといたしましては、厳しい経営環境の中、安定した経営基盤の確立に、全社一丸となって取り組んでまいりますので、株主の皆様におかれましては、引き続き一層のご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

なお、第 143 期の中間配当につきましては、株主の皆様には誠に申し訳なく存じますが、財務状態が十分ではなく、その実施を見送らせていただくことといたしました。

平成22年 12月

代表取締役社長

中安茂夫



本社及び工場



浜北工場

REVIEW OF OPERATIONS

事業の概況

平成22年4月1日から平成22年9月30日に至る当社グループ第143期中間連結期間の事業の概況をご報告申し上げます。

工作機械関連事業部門

当中間連結期間における工作機械業界（日工会）の受注総額は5,072億円（前年同期比157.5%増）となり、内需1,651億円（前年同期比92.6%増）、外需3,421億円（前年同期比207.7%増）と前年同期を大きく上回っております。特に外需は、好調なアジアの設備投資需要によって大幅に増加しております。

このような中で工作機械関連事業部門では、リーマンショック以降、急激に落ち込んだ受注獲得のため中国等アジア新興国を中心に積極的に海外販売活動を展開し拡販に努めてまいりました。その結果、受注高は前年同期を上回ったものの、売上高は昨年の受注減の影響により僅かではありましたが減少いたしました。

また、光関連事業部門につきましては、国内の設備投資需要が抑止傾向にある中、高出力半導体レーザー加工機において、溶接品質の向上、焼入れ技術などの工法改善の提案や試作評価による営業活動を展開してまいりました。これにより受注高、売上高ともに前年同期を上回りました。

以上の結果、工作機械関連事業部門の売上高は4,137百万円（前年同期比0.4%減）となり、営業損失は299百万円（前年同期は営業損失592百万円）となりました。

国内では、急激な円高の進行や一部の景気対策の打ち切りなど景気動向に先行きの不透明感も懸念され、受注環境は厳しい状況が続くと思われますが、海外では中国等アジア新興国において自動車産業や電子機器関連産業による需要が引き続き期待されています。



▲横形マシニングセンタGE480H



▲オイルパン加工ライン



▲高出力半導体レーザーによる
精密低ひずみ焼入れ

当社といたしましては、今後も市場の成長が見込まれます中国におきまして、山東省・青島市に海外現地生産の新たな拠点として平成22年6月に中国製造子会社を設立致しました。更に、同地域に販売・サービス拠点とし、販売合併会社を丸紅(株)と共同出資により設立してまいります。これにより、設備投資需要の旺盛な中国市場において、製造販売一体となって更なる拡販を図ってまいります。

また、現在タイ国にて生産しております製造子会社と合わせ海外現地生産を拡大して低価格のマシニングセンタを市場投入し、競争力の向上に取り組んでまいります。

技術、製造部門では、顧客からの低価格、短納期要求に応えるため、マシニングセンタの新製品を開発し、第25回日本国際工作機械見本市(JIMTOF2010)に出品しました。これらを市場投入し今後の拡販を図ってまいります。

また、引き続き収益改善を推進するため内製化やグローバル調達の拡大により変動費圧縮によるコスト削減の取組みや、工場の生産性向上を図ってまいります。

新事業推進本部の光関連事業部門では、自動車産業分野と新素材、バッテリー等の環境対応分野に対し営業活動を推進すると共に、小型軽量高パワー密度の新型半導体レーザーを搭載した新製品を開発し、販売拡大を目指してまいります。また、新規事業準備室では、航空機産業分野への参入を目指した環境整備を進めると共に、航空機部品などの共同受注・生産を目指す企業グループプロジェクトへの参画などの取り組みをしてまいります。

輸送機器関連事業部門

当中間連結期間におきましては、主力製品であります二輪車、バギー車用エンジン部品および自動車関連部品の生産が増加したことにより、売上高は前年同期を上回りました。営業利益は、売上高の増加および徹底した原価低減や経費削減等により黒字化いたしました。

以上の結果、輸送機器関連事業部門の売上高は6,502百万円(前年同期比74.2%増)、営業利益は351百万円(前年同期は営業損失196百万円)となりました。

今後につきましては、景気動向等による先行きの不透明さも懸念され、事業を取り巻く環境は、しばらく厳しい状況が続くものと思われます。

引き続き、徹底した品質、コストの作り込みや経費削減等の取組みを推進し収益体質の強化を図ってまいります。

また、エンジン部品加工の拡大、自動車関連の新規製品の取入れにも取り組んでまいります。



▲輸送機器関係クランクケース加工ライン

INTERIM CONSOLIDATED FINANCIAL STATEMENTS

中間連結財務諸表

中間連結貸借対照表（要旨）（平成22年9月30日現在）

（単位 百万円）

項 目	金 額
●資産の部●	
流 動 資 産	14,856
現金及び預金	2,357
受取手形及び売掛金	3,408
商品及び製品	1,694
仕 掛 品	4,773
原材料及び貯蔵品	587
そ の 他	2,123
貸倒引当金	△88
固 定 資 産	13,074
有形固定資産	12,716
機械装置及び運搬具	2,969
土 地	7,387
そ の 他	2,359
無形固定資産	63
投資その他の資産	294
そ の 他	472
貸倒引当金	△178
資 産 合 計	27,931

項 目	金 額
●負債の部●	
流 動 負 債	12,685
支払手形及び買掛金	5,738
短期借入金	6,016
未払法人税等	18
賞与引当金	105
そ の 他	807
固 定 負 債	11,840
長期借入金	7,237
退職給付引当金	1,913
役員退職慰労引当金	99
負 の の れ ん	14
資産除去債務	231
そ の 他	2,344
負 債 合 計	24,526
●純資産の部●	
株 主 資 本	380
資 本 金	4,640
資 本 剰 余 金	1,230
利 益 剰 余 金	△5,438
自 己 株 式	△51
評 価・換 算 差 額 等	3,024
純 資 産 合 計	3,405
負 債 純 資 産 合 計	27,931

（注）記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

中間連結損益計算書（要旨） 自 平成 22 年 4 月 1 日
至 平成 22 年 9 月 30 日
(単位 百万円)

項 目	金 額
売 上 高	10,678
売 上 原 価	9,693
売 上 総 利 益	984
販売費及び一般管理費	906
営 業 利 益	78
営 業 外 収 益	34
営 業 外 費 用	337
経 常 損 失	224
特 別 利 益	24
特 別 損 失	27
税金等調整前中間純損失	226
法人税、住民税及び事業税	6
法 人 税 等 調 整 額	△1 4
中 間 純 損 失	231

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

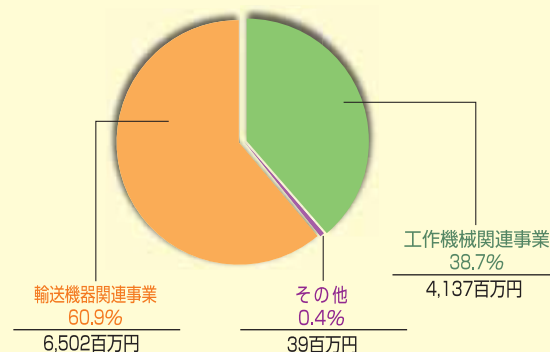
中間連結キャッシュ・フロー計算書（要旨） 自 平成 22 年 4 月 1 日
至 平成 22 年 9 月 30 日
(単位 百万円)

項 目	金 額
営業活動によるキャッシュ・フロー	△202
投資活動によるキャッシュ・フロー	△193
財務活動によるキャッシュ・フロー	523
現金及び現金同等物に係る換算差額	5
現金及び現金同等物の増加額	132
現金及び現金同等物の期首残高	2,224
現金及び現金同等物の中間期末残高	2,357

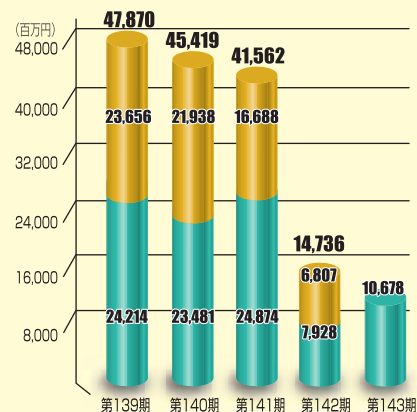
(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

売 上 高

10,678百万円
(うち海外 3,218百万円)



売上高の推移



TOPICS

トピックス

シカゴショー2010 (IMTS 2010)

Chicago Show 2010 (IMTS 2010)



世界3大国際工作機械見本市のひとつ「シカゴショー2010」が2010年9月13日から18日まで米国シカゴのマコーミックプレイスで開催され、世界30ヶ国から1,728社が出展し、入場者は8万2千名を上回りました。

当社からは横形マシニングセンタ GE90HとJE80S、立形マシニングセンタEV360の3台を出展しました。

米国初上陸となるGE90Hに対するディーラー、ユーザーの印象・評価は良く、他機種を含め多くの商談をいただきました。



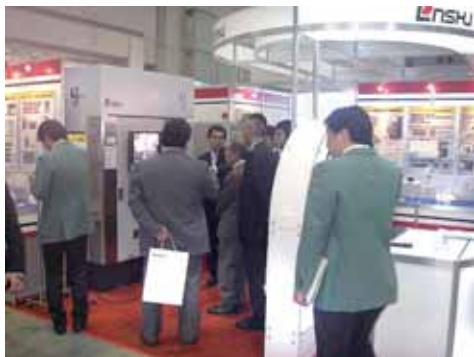
2010国際ウエルディングショー

Japan International Welding Show 2010

世界3大ウエルディングショーのひとつであり日本唯一の溶接専門展「2010国際ウエルディングショー」は2010年4月21日から24日まで東京ビッグサイトで開催されました。

当社からは高出力半導体レーザーを搭載した小型溶接システム『LJ』で、直接集光型半導体レーザー (DDL) の特徴である長方形のビーム形状に適した新開発のビーム回転光学系を用いた実演を行いました。

また、半導体レーザーで加工したサンプルとして「鉄系の各種継ぎ手の溶接」「異種金属の接合」「焼入れ」「樹脂溶着」などを展示し、非常に多くのお客様にご覧いただき、現在も多くの問い合わせをいただいております。



STOCK REPORT

株式の状況

1. 株式の総数・資本金

発行可能株式総数	150,000,000株
1単元の株式数	1,000株
発行済株式の総数	63,219,232株 (自己株式 315,314株を除く)
資本金	4,640,850,000円

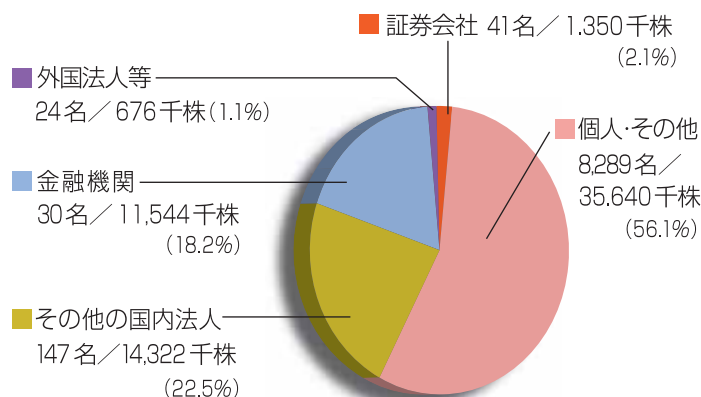
2. 大株主

ヤマハ発動機株式会社	6,457千株 (10.21%)
エンシュウ取引先持株会	4,905千株 (7.76%)
丸紅株式会社	3,612千株 (5.71%)
浜松ホトニクス株式会社	2,000千株 (3.16%)
株式会社みずほコーポレート銀行	1,572千株 (2.48%)
みずほ信託銀行株式会社	1,455千株 (2.30%)
株式会社りそな銀行	1,414千株 (2.23%)
株式会社損害保険ジャパン	1,363千株 (2.15%)
明治安田生命保険相互会社	1,114千株 (1.76%)
日本証券金融株式会社	1,083千株 (1.71%)

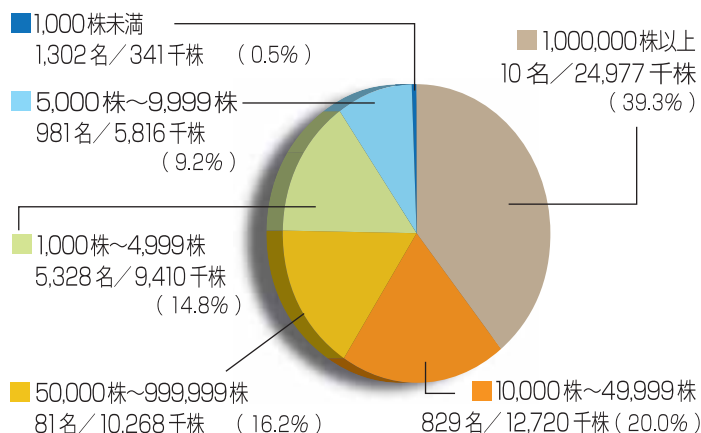
(注) 比率は発行済株式総数から自己株式を控除して計算しております。

3. 株主の構成

所有者別株式分布状況 合計: 8,531名 / 63,534千株



所有株数別分布状況 合計: 8,531名 / 63,534千株



(注) 株数は千株未満を切り捨てて表示しております。

COMPANY PROFILE

会社の概況

商	号	エンシュウ株式会社 (英文 ENSHU Limited)
設	立	大正9年2月5日
資	本	46億4,085万円
発行済株式総数		63,534,546株
株主数		8,531名
従業員数		793名(連結)
生産品目		工作機械、輸送機器関連部品 半導体レーザー加工機

事業所

本社及び工場 〒432-8522 静岡県浜松市南区高塚町4888 電話 053-447-2111(代)

浜北工場 〒434-0016 静岡県浜松市浜北区根堅788 電話 053-588-0211(代)

営業部・支店

営業部 〒434-0016 静岡県浜松市浜北区根堅788 電話 053-588-4771(代)

東京支店 〒140-0011 東京都品川区東大井4-13-15 (スターハイツ)
電話 03-5479-1671(代)

大阪支店 〒564-0063 大阪府吹田市江坂町1-23-43 (ファサード江坂ビル)
電話 06-6338-2471(代)

サービスステーション / 金沢・広島・九州

海外拠点

ENSHU (USA) CORPORATION	(シカゴ)
ENSHU GmbH	(フランクフルト郊外)
ENSHU (Thailand) Limited	(バンコク)
BANGKOK ENSHU MACHINERY Co.,Ltd	(バンコク)
PT. ENSHU INDONESIA	(ジャカルタ)
ENSHU (QINGDAO) MACHINERY Co.,Ltd	(中国)
ENSHU Limited Beijing Office	(中国)
ENSHU Limited Wuxi Representative Office	(中国)

役員

(平成22年9月30日現在)

代表取締役社長	中 安 茂 夫
取締役	小 木 国 典
取締役	中 村 泰 之
取締役	中 村 和 夫
取締役	金 原 一 也
取締役	千 賀 伸 一
取締役	安 田 俊 二
常勤監査役	澤 木 達 治
監査役	石 塚 尚
監査役	菅 沼 幸 雄

株主メモ

事業年度 毎年4月1日～翌年3月31日

剰余金の配当の基準日
(期末配当) 3月31日
(中間配当) 9月30日

定時株主総会 毎年6月

なお、定時株主総会において権利を行使することができる株主は、毎年3月31日最終の株主名簿および実質株主名簿に記録された議決権を有する株主となります。

単元株式数 1,000株

株主名簿管理人 東京都中央区八重洲1丁目2番1号
みずほ信託銀行株式会社

事務取扱場所 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部

公告方法 電子公告 (<http://www.enshu.co.jp/koukoku/>)
ただし、やむを得ない事由によって、電子公告による公告をすることができない場合には、日本経済新聞に掲載して行います。

株式の上場 東京証券取引所市場第一部

	証券会社に口座をお持ちの場合	特別口座の場合
郵便物送付先	お取引先の証券会社になります。	〒168-8507 東京都杉並区和泉2-8-4 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部
電話お問い合わせ先		0120-288-324 (フリーダイヤル)
お取扱店		みずほ信託銀行株式会社 全国各支店 みずほインベスターズ証券株式会社 本店および全国各支店
ご注意	未払配当金の支払、支払明細発行については、右の「特別口座の場合」の郵便物送付先・電話お問い合わせ先・お取扱店をご利用ください。	単元未満株式の買取以外の株式売買はできません。 電子化前に名義書換を失念してお手元に他人名義の株券がある場合は至急ご連絡ください。

単元未満株式(1～999株)を 保有されている株主のみなさまへ

**単元未満株式は
市場における自由な売買ができません。**

単元未満株式(1株から999株)を保有されている株主のみなさまからの、単元未満株式の買取請求をお受けしております。手数料はかかりません。

当社株主名簿管理人・特別口座管理機関
みずほ信託銀行株式会社 証券代行部
にお問合せください。
0120-288-324 (フリーダイヤル)

【ご注意】

証券会社等の一般口座で保有する単元未満株式については、お取引先の証券会社等を通じてお手続きをしていただくようになりますので、株主様のお取引先の証券会社等にお問合せください。



ホームページのご案内

当社はインターネット上で最新の情報を皆様に提供しております。

ホームページアドレス <http://www.enshu.co.jp>